

## <国語の調査結果に見られる特徴と現状>

全国平均を下回る結果となったが、ほとんどの内容では全国平均を上回っている。特に、「読むこと」や昨年度同様「話すこと・聞くこと」の平均正答率が高かった。また、短答式や記述式の問題において、無解答率が低い点も良い点である。普段の授業に意欲的に取り組んでいる様子が学力調査の結果にも表れている。

全国平均や県平均を下回ったのは、「言葉の特徴や使い方に関する事項」である。漢字や文法の問題の平均正答率が低いことが原因となっている。また、問題文をよく理解した上で解答したり、複数の条件に合わせて解答したりすることにも課題がある。

## <算数の調査結果に見られる特徴と現状>

どの領域、問題形式でも全国平均を上回っている。特に、「図形」や「変化と関係」の平均正答率が高かった。また、国語同様、全体的に無解答率が低い。基礎的な内容については、十分におさえられている児童が多い。

課題としては、問題文をよく理解せずに解答し間違えている児童が多かった点である。また、複数の条件を満たした解答を求められる問題で、一部の条件しか満たせずに解答する児童が多かった点も課題である。

## <学校質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

「授業改善」と「ICTを活用した学習状況」の項目が特に良い項目として挙げられた。経年の分析で見ても良い結果が出てきており、これまでの研修の積み重ねが意識の向上につながっていると考えられる。

一方で、「家庭や地域との連携等」の項目では、全国平均を下回る結果となった。子ども見守り隊や社会福祉協議会など多くの皆様に協力していただいているが、それらが知られていない現状もある。湖北台中区の学校間での連携、家庭・地域との連携をさらに図るとともに、広報活動等にも力を入れていきたい。

## <児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

昨年度までと同様に、全体的に肯定的な回答が多い。特に、「規範意識」の項目が全国平均を上回った。本校の特徴として、素直で真面目な児童が多いことが挙げられる。

「普段（月曜日から金曜日）、ゲームをしたり動画を視聴したりしている時間が3時間以上である」と答えた児童の割合が、全国平均より10%程度高かった。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた児童の割合が、全国平均より10%程度低かった。

「算数の勉強は好き」、「算数の授業の内容はよく分かる」と答えた児童の割合が、全国平均より10%程度低かった。

## <これからの具体策>

### (授業における具体策)

- 今までに習った漢字や文法等についても，学習の中で取り入れていく。
- 低学年を中心に，読書の時間を十分に確保する。
- 正しい用語等を使って書いたり，話したりさせていく。
- まとめを書かせる際に，いくつかの条件をつけて書かせる。
- 情報量が多い問題も取り入れる。
- 問題自体は簡単だが，よく読まないと間違えてしまう（引っ掛け問題）問題も取り入れる。
- タブレットなどのICT機器を有効活用していく。

### (その他の具体策)

- 保護者が参観できる機会を設けていく。
- 地域学校協働活動推進委員や社会福祉協議会の方々等に協力をお願いし，地域とのつながりを深めていく。
- 児童一人ひとりの良いところを認めたり，心配な児童には声をかけたりしていく。
- 楽しく，分かりやすい授業を目指して，校内研修や教材研究を進めていく。